

夕陽會報



函館市電開業100年～薄暮の十字街電停にて～

第209号



◇巻頭言◇

ふるさとを思う

参与 古旗 英捷

(昭和41年卒 北海道社会教育委員連絡協議会事務局長)

地域社会には、農耕型社会と狩猟型社会があるとされる。函館は歴史とロマンの街ではあるが、私は、経済的發展過程から見ると主として漁業関係で隆盛を極めた街であり、その意味から言えば狩猟型社会の血筋を引いていると思う。

農耕型社会は住民が力を合わせ自然と対峙していく共働社会であるのに対し、狩猟型社会は、個人や家族が技を駆使して獲物をとる競争社会である。(獲得した獲物は集落で分け合うという意味では助け合いの精神はあるが。)

つまり、かつて函館は北洋漁業という大規模な狩猟をベースに発展してきた街であり、そこには荒波と闘う闘争心の強い漁師魂が漂う街なのである。したがって、淡泊な気性が強く、あくまでも個々の付き合いが中心であり異なる組織が一体となつて街づくりに取り組むという考えが希薄であつたように思う。

こうした風土で育ち暮してきた住民には当然のことながら、「おれがおれが」の競争意識は染みついているもので、もし負け組になればその不満はネガティブに行政や他に向けられるということが多かったのではないだろうか。だから、住民と行政、あるいは異なる者同士が一緒に知恵を出し合い、街をよりよくしていくというポジティブな気運は生じにくい土地柄であつたともいえるかもしれない。

今、函館は北海道新幹線や大学構想等の新しい課題を抱え、関係者は将来の街の状況がどうなるのかと推測し、その対

応に知恵を出し合っていると思う。そのような状況下にある時、従前からの狩猟社会的な個人の競争意識で物事を考えていいのだろうか。今こそ、住民が一枚岩になり農耕社会的発想で共に知恵を出し合い、我がまちをどうするか考える時ではないかと思うのである。

これらの課題は、解決までまだ時間があるように感じられるが、ことの難しさを嘆き、口を開けて待つていても時間はあつという間に過ぎる。関係者は、それぞれの立場や利害を述べあうことに終始するのではなく、広く住民等を巻き込み街全体の繁栄存続のための設計図作りの協議を早急に開始すべきである。

もちろん住民自身も、行政や誰かがやってくれるという意識を捨てなければならぬ。そして、函館の将来を担う若い人から歴史を実感している高齢者まで、さらには、近隣の市町村や外部から函館を見ている人などにも加わってもらい、住民と行政、異業種同士が点から線・面へとのつながりを広げ、双方向性を重視して緊張感を持って取り組んでいくことが緊要の課題だと考える。

先日、テレビで北海道新幹線にかかわり知恵を出し合う動きが道南でも出始めたことを放映していた。喜ばしいことだと思つた。そうした新しいまちづくり創造の動きに対し強い関心をもって応援の拍手を送っていきたい。「批評」は「批判」ではない。「創造」である。ふるさと函館・道南の隆盛を願ってやまない。

榮譽同窗



○瑞宝双光章

受章の原点を尋ねて

函館市
乳井邦衛

（昭和19年卒）と

昨秋、米寿を迎え、十二月一日付で、高齡者叙勲、瑞宝、双光章、拝受の栄に浴し、深く感激しているところであります。高齡者叙勲とは、如何なる事であらう。すでに、多くの方々が、夫々の分野で、受章の榮に浴しておられるので、その原點を尋ねて見ました。趣旨を問えば「社会の様々な分野で顕著な功績をあげた者」又は「公共的職務に長年従事成績を上げた者」に授与するものとありました。また、具体的な資料としては、私が八雲小学校教頭時代（昭和四十三、五年）校長であつた高橋桂樹先生との長いお付合ひの中で頂いた「自伝的文集」の中に叙勲の原點に触れる一文がありましたので参考までに要約して転載いたします。

「叙勲は、春、秋が主であるが、毎月日付で、発せられるものもあります。高齢者叙勲といわれるもので、昭和四十八年春の叙勲で、対象者に高齢者が多い事に気付いた総理大臣田中角栄氏の発言から、「春秋の叙勲の対象となる条件を備えていながら高齢になった人の為、八十八歳を迎えた制度一日を発令日とする。」米寿の叙勲が制度化された。高齢者が対象なので、天皇陛下への拝謁は行われな

い」(三省堂企画「新米典制度事典」より)

教育の道一筋に歩んで来た私共にとつて、誠に有難い制度であり、私の人生を支えて来て下さったすべての人々に、心から感謝し、お礼申し上げる次第です。



○瑞宝双光章

叙勲を受けて

岩見沢市 三条 純雄

(昭和25年卒)

か 申僚ま いをさ場 二さ応自を会 た感年
 つ 顧しそしこた賜れで十せす分い会 更こいを昨
 たみし上 れたる 文一りのた長にとを経年
 教まげで育きたる統部月れた四たさ が覺て
 職する夕てにまき科九るけ十きん十思え 秋
 四と次陽で有し て、学日この年 を一いな叙、
 十空第会い難た身皇大 との間議初月出が勲九
 年知でのたぐ、 に居臣妻しとのにめ三らるの月
 で管す皆た、 余にか同きが教有 日れお内
 し内。様いこ る参ら伴りあ職難多発ま受十一
 たか 心にたれ る感内勲でてつくく表すけを一日
 がら 上たま 激し記上た活思のす。すけを一日
 出 可司で 激し記上た活思のす。すけを一日
 徹る ち、京たのいは皆同 けを一日
 の先自 味天勲。か、と様時 旨を、戰後
 上の 輩分を わの皇章 と同方に、 驚後
 上 礼を 授授立 反にに祝夕 事と十二
 司な を同励 て諷与劇 省相、辞陽 し戸

代の致とな 思のが務輩い経年側れ十身相授
 え益いくこい教思の問営で面「年」に半半輩の
 さ々たうれますし師全方題にしか指「つす」授
 せてご思葉いらしと出さすの出か。主導次にこと業
 頂発つをのはと感でれるお合わ最校事上ことをの指導
 き展で囃一日受業の歩み。がえ十教のて夕出の発表受
 ます。祈め日一章業のて誠でも三頭課の陽來、なけて
 念すなは重外に、にき解あ年「題任のた教師の日々
 申「が万金に、に恵ま決り間校解に先教師とのの
 し終ら金に、にましますまで長什輩論と授
 上り余に忠あはしたるしににきににの中、
 げに生値れりたたこなたし努すとして、
 おたをいるま四とどが「てめ行すの道
 礼陽さんせんと十な「難学た政め的道教
 に会うとせんを年と職先し校七のら二を究



○瑞宝双光章

多くの出会いに感謝して

札幌市 富田 繁

(昭和26年卒)

この度、図らずも秋の叙勲の榮に浴し
身にあまる名誉なことで、大変感激致し
ております。

私は昭和二十六年卒業と同時に十勝に赴任しました。新得小学校です。校長先生は、函館師範の大先輩中川庄作先生で教師の第一歩から仕込まれました。「教師は子どもと共に動かなければならない」そしてこどもをしつかりつかむこと。そこから教育の根がはる。」この教えをもとにあらゆることに無我夢中の三年間でした。先生の謹言実直な人がらに大感銘を受けると共、教師としての足もとをしつかり固めることができました。



○全国学校体育研究功劳者表彰

仲間の絆に感謝

函館市
小松一保

(昭和50年卒)

この度、全国学校体育研究功労者表彰の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。また、受賞に際しましては、夕陽会をはじめ、皆様から心温まるお祝いの言葉をいただき、誠にありがとうございます。衷心よりお礼申し上げます。

平成二十四年十月二十五日に札幌市で開催されました全国学校体育研究大会開会式終了後の授賞式で表彰されましたが私自身は、全国連合小学校長会研究協議会奈良大会出席のため、やむを得ず欠席させていただきました。

函館市小学校体育研究会は、この五十年余の北海道学校体育研究連盟の歴史の中で幾多の研究大会を開催したり、研究

発表を行ったりするなど、研究・実践で多大な貢献をしてきております。この度の受賞は、このような函館市小学校体育研究会の業績や成果が評価されたものであり、退職する私がその代表としていただいたものであります。

私は、夕陽会の皆様はもとより、体育研究会の諸先輩、仲間から大変多くのことを学ばせていただきました。

これまで、自分を育て支えてくださいました多くの皆様に、感謝の気持ちでいっぱいであります。どうぞこれからもご指導を宜しくお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様のご健勝と夕陽会の益々のご発展をご祈念申し上げます。

受賞(章)おめでとうございます

*瑞宝双光章

畠山慶一氏 昭和19年卒

函館市柏木町16の41

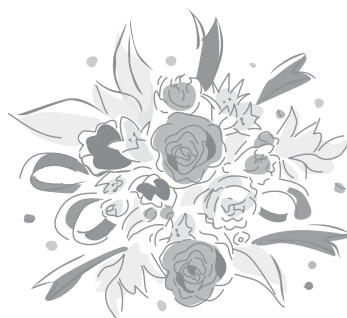
堀文孝氏 昭和19年卒

函館市中島町35の29

八木幸夫氏 昭和19年卒

函館市元町4の7

(前号に掲載できなかった方のみお名前を載せさせていただきました。
ご了承ください。)



○瑞宝双光章

夕陽との縁

函館市 畠山慶一

(昭和19年卒)

この度八十八歳(米寿)の誕生を迎え、高齢者叙勲の栄を賜り、勲記勲章を拝受する。春秋の叙勲とは性格は異なるが、長寿を保ってきた証でもあり、多くの方々に支えられてのことと有難く戴くことにした。

思えばこの受賞は多くの人との出会いに恵まれた結果で、教職歴五十年(公立校四十年、大学講師十年)の中で夕陽の方々の恩恵によるものとも言える。

附属小在学の六年間の担任が町田利兵衛先生(初代幹事長)で、私の生涯に示唆を与えてくれた大きな存在であった。

終戦後の二十四年から附属中に勤務。附属の代々の校務主任(現副校長)は夕

陽の幹事長であったから、会務の全般の責務を負っていて全職員が分担していた。若輩の私は、先輩の命ずるままに、会長や先輩幹部の許に使い走りさせられ、親しく指導を受ける機会に恵まれた。三代の加茂会長から四代、五代と続き、七代は同期の瀬川会長になった。後輩の八代の安島会長は職場での同僚でもあり、現在に至るまでも縁が続いている。校長時代には、職場でも研究会でも後輩諸氏の大きな支援を得てきた。顧みて、私の人生を支えてくれ今日の栄誉を拝受できたことは、夕陽各位との出会いと支援があった結果であり、ここに改めて感謝の念を深くする次第である。



○瑞宝双光章

感謝

函館市 堀

文孝

(昭和19年卒)

昨年、米寿を迎え高齢者叙勲者の中に入れていただき、瑞宝双光章をいただきました。長生きのごほうびと喜び感謝しております。

ておりましたが、その後、夕陽会を始め教え子など多くの方々から身にあまるお祝いの言葉をいただきました。かしら恥ずかしさが加わってまいりました。加えて私は、海軍予備学生、海軍少尉の軍歴があり、さきの大平洋戦争で大きな犠牲のあったことを忘れることは出来ません。

恥ずかしさに加えて申しわけなさも加わり複雑な心境になったことを、今思いかえしております。ともあれ、幸に恵まれ

長生きできたことをすなおに喜び感謝申しあげたいと思っております。

「ぼけたらあかん」「長生きしなはれ」東北の旅したときお土産店で見かけた言葉で、私にぴったりで大きく呼びかけられたような気がしました。つぎは卒寿ですね、と言われていきます。ぼけたらあかんと自分にいい聞かせ、一日一日を大切に頑張つて行こうと思っております。有難うございます。

平成二十六年
北海道教育大学函館校は
創立百年を迎えます！

「函館小学教科伝習所」より数えると
百三十七年になります。

北海道教育大学函館校の未来にむけて

まちづくりと大学のリレーションシップ

— 岩 船 寛氏が講演 —

二月十六日（土）十三時三十分から、北海道教育大学函館校第十四番講義室を会場に、北海道教育大学函館校、函館校の未来を考える会の主催による、北海道教育大学函館校の未来にむけて「まちづくりと大学のリレーションシップ」と題した講演会が開催されました。

この講演会は、「まちづくりの大切な構成要素としての大学」という視点から函館の高等教育機関として教育大学函館校がこれまで地域とともに歩んできた歴史と実績について振り返るとともに、現在北海道教育大学が進めようとしている「国際地域創造学部（仮称）」について

「国際地域創造学部（仮称）」について広く地域やまちづくりの視点から検証し、その中に潜む期待や課題などを浮き彫りにしながら、函館校の今後歩むべき方向性について考えようと開かれたものです。

講師の岩船寛氏（NPO法人・函館消費者協会理事長）は、これまでの行政や大学関係者としての広範な経験をもとに、函館校のこれまでの歩みと実績、そして函館の町とともに歩む大学のあるべき姿について具体的な事例を交えて提言し二時間近くに渡り熱く語り続け、会場の二百名の参加者に大きな感銘を与えました。岩船氏はリレーションシップを「親類関係」と和訳し、まちづくりと大学の密接な関係性の大切さについて「まちづくりを考える」「函館の高等教育機関を考える」「函館における教育大学について考える」「今後の歩み」の四部構成で講演しました。講演の概要は次の通りです。

一 教育とまちづくり

「学制と民度」にみる
人づくり＝教育＝国（まち）づくり

明治五年、「学制施行」

国民に義務教育の概念を植え付ける。

「子弟が生き抜くため、明日の米の飯にありつくため、教育を受けさせなければならぬ。」子ども達を飢えさせぬため、身を立つるが基本理念。国民皆学、実学としてのキャリア教育の推進。とにかくキャリアをもたせる。

民度の高さ

昭和二十年のポツダム宣言受諾以降の混乱期にも、日本の教育は停滞することなく、継続・維持されてきた。規律正しさ・勤勉さ・清潔さ等の民度の高さは、脈々と受け継がれていった。

町を構成する基本的な要素と機能

○基本的七要素／眠る＊働く

楽しむ＊消費する＊安心と安全
歴史＊憩い

○基本的六機能／行政＊教育
福祉＊産業＊医療＊交通

まちづくりには、憩いや潤いも必要。特に積み上げられた歴史と独特の風土を有する函館は魅力的である。大学が存在する「まち」には多くのメリットがある。

- ① 最寄り品の消費
- ② イベント発進力

③ 臨時的若年労働力

④ 若年人口の維持

⑤ 地方交付税の分配割合

二 函館地域の高等教育機関設置運動

国立大学誘致と設置運動と市民の想い。

○公立未来大学創立までは、函館にただ一つも大学本部がなかったという事実。

○成功しなかった国立大学誘致運動。

悔いが残る過去のできごと

明治三十六年の専門学校令を受け、小樽・函館が高等商業学校（旧制）を誘致。函館は明治四十年は函館大火により、大きな被害（焼失家屋九千戸・市の半分が焼ける）を受け、結局は札幌に近い金融商業都市であった小樽市に高等商業学校（現在の小樽商大の前身）が開学した。

三 教育大学函館校と新学部構想

「地域とともに歩んだ
輝かしい歴史と実績」

明治八年「土地の者を以て教師に充てたい」として開設された函館小学教科伝習所の精神を今一度思い起こし、百三十七年の歴史に胸を張ろう。

仮称「国際地域創造学部構想」

に係わる疑問

① 「土地の者を以て」という精神に反し、なぜ小学校教員免許取得機能を喪失させるのか。

② 地域や保護者の声を聞き、要望を十分に反映させたのか。

③ 大学院での免許取得案等、保護者の学費負担増をどうするのか。

④ 臨時教員の採用難、地元では免許が取れない等、市政や教育行政執行上の問題にどう対応するのか。

四 提言 函館校が今後進むべき方向

「国際的視野を持ち
地域に密着する知性集団」

① 今後社会に必須な国際的視野をもち、幅広い分野で国際社会に通用する人材の育成

② 実学重視の授業による、地域を支える専門人材の育成

③ 教育免許の取得を残すことにより、幼小連携・幼保一体体制の確立

④ 知性集団としての地域貢献／地域との委託研究の促進

そのためには、大学においてバランスのとれた教員陣が必要である。

① 教員養成に特化した教員の充実

② 法律・政治・経済担当教員の充実

③ 各種外国語・一般教養を担当する教員の充実

（情宣部長 昭56年卒 古川邦彦記）



会務報告



幹事長
奥崎 敏之
(昭和60年卒)

《一般会務・函館校関連の動き》

11/28

工藤市長、高谷市長をはじめとする道南の十八市町からなる北海道市町村連絡協議会が函館校の教員養成機能存続の要請を本間学長に行う。(札幌)

12/12

北斗市の高谷市長と橋田会長が懇談する。(北斗)

12/17

五分校会長・学長懇談会に橋田会長が出席する。(札幌)

12/20

前田衆議院議員と橋田会長が懇談する。(函館)

12/22

星野副学長と橋田会長が懇談する。(函館)

12/26

乙部町の寺島町長と橋田会長が懇談する。(乙部)

12/29

工藤市長、高谷市長をはじめとする北海道市町村連絡協議会が函館校の教員養成機能存続の要請を文部科学省に行う。

1/7

(東京)
在札幌指導主事等会激励会に青柳副会長が出席する。(札幌)

1/21

五分校会長と道教委吉田教育次長との懇談会に橋田会長が出席する。(札幌)

1/26

第10回夕陽音楽会が芸術ホールで開催される。(函館)

2/5

函館市顧問会議に橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(函館)

2/7

北教大函館校情報デザイン・

アート展にて夕陽賞を授与する。(函館)

2/8

日胆ブロック会議に福井副幹事長が出席する。(苫小牧)

2/15

夕陽受賞祝賀会が開催される。(函館)

2/16

函館校・函館校の未来を考える会主催「まちづくりと大学」の講演会が開催される。(函館)

2/20

道南の教育を考える会が文部科学省に第二次署名一万五千五百八筆を届ける。(東京)

12/7

《支部総会・懇親会・同期会・個展等》
室蘭市支部例会に天野副会長が出席する。(室蘭市)

12/8

札幌市支部大忘年会に橋田会長が出席する。(札幌市)

1/7

特別支援学校支部総会に平田副幹事長が出席する。(札幌)

1/9

高等学校支部新年会が開催される。(札幌)

1/13

青森西北五支部総会に植山副幹事長が出席する。(五所川原)

1/26

胆振連合支部大懇親会に天野副会長が出席する。(室蘭)

1/26

後志支部勇退感謝の会に青柳副会長が出席する。(余市)

1/26

網走連合支部総会に奥崎幹事長が出席する。(温根湯)

1/26

岩手支部総会奥州集会に繪面副会長が出席する。(奥州市)

2/8

苫小牧支部勇退者激励会に福井副幹事長が出席する。(苫小牧)

2/9

渡島支部勇退者激励感謝の会に橋田会長が出席する。(函館)

2/9

日高支部激励会・懇親会に福井副幹事長が出席する。

2/23

(新ひだか町)
檜山支部総会・先輩送る会に植山副幹事長が出席する。(江差)

平成二十四年度「研究助成報告」

今年度の研究会・研修会等への助成実績がまとまりましたので、お知らせします。(研修部)

(研修部)

○ 第四十二回 北海道養護教員研究大会

会 渡島大会

○ 平成二十四年度 夕陽会日高支部学習会

○ 夕陽会 空知支部 全体研修会「教育講演会」

○ 夕陽会 小樽支部 夏季研修会

○ 平成二十四年度 夕陽会札幌支部第一回会員研修会

○ 帯広市立大正小学校 教育実践発表会

○ 平成二十四年度 十勝管内へき地・複式教育研究大会

○ 平成二十四年度 夕陽会留萌支部研修会

○ 第五十八回 北海道視聴覚教育研究大会

○ 北海道教育大学函館学校教育学会第十八回大会

○ 平成二十三・二十四年度 北海道渡島教育局指定 平成二十四年度 北斗市立浜分小学校 公開研究会

○ 平成二十四・二十五年度 渡島教育局指定 北斗市立島川小学校 公開研究会

○ えさん小学校恵山中学校地域連携研修会

○ 帯広市立つつじが丘小学校 第五回教育実践発表会

○ 夕陽会 小樽支部冬季研修会

○ 平成二十四年度 夕陽会岩手支部総会奥州集会

○ 北海道教育大学夕陽会 特別支援学校支部講演会

○ 網走連合支部「平成の会」(若手枠)研究助成

夕陽会員名簿の訂正について

訂正について

夕陽会員名簿の訂正

今回、平成二十四年度版会員名簿を発行しましたが、間違いがございました。お詫びし訂正させていただきます。

◎大塚様につきましては、誤って死亡欄に掲載してしまいました。

大塚 征勝氏 昭36年I類

〒064-0951

札幌市中央区宮の森1条16丁目7の2

TEL 011(621) 9464

◎米澤様、絹野様、平田様につきましては掲載漏れがございました。

米澤(滝) 幸子氏 昭40年I類

〒002-8004

札幌市北区太平4条5丁目8の26

TEL 011(771) 1823

絹野(中野) ヒデ子氏 昭40年I類

〒041-0808

函館市桔梗4丁目5の6

TEL 0138(47) 7085

平田(国分) 喜代子氏 昭40年I類

〒052-0024

伊達市鹿島町8 不動寺

TEL 0142(23) 3479

ご本人様を含めて、関係する方々にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。(組織部)



第十回夕陽音楽会を開催

文化部長 佐藤 洋子

(昭和53年卒 函館市立千代田小学校長)

去る一月二十六日(土)函館市芸術ホールにおいて、第十回夕陽音楽会が開催されました。

四年に一度開催されてきたこの音楽会も今回で十回目を迎えました。

当日は天候にも恵まれ、開場三十分前にはホール入口に長蛇の列ができ、会場は六百名を超える同窓生はじめ演奏を楽しむにお集まりいただいた市民の皆様でいっぱいになりました。

プログラムは今回も、会員や会員が主催する団体、そして会員とその教え子たちによる演奏等、バラエティーに富んだものとなりました。

それでは今回の音楽会について、皆様の感想を交えながらご報告いたします。オーブニングは、恒例の『夕陽混声合唱団』による演奏から始まりました。長谷川吉秀氏(S47年卒)の力強い指揮と岩佐英子氏(H44年卒)の流れるようなピアノ伴奏で、「函館師範校歌」に続き、組曲「旅」より「なぎさを歩めば」と「行こうふたたび」の重厚なハーモニーが会場いっぱいに響き渡りました。無伴奏による「はるかな友に」は、学生時代がよみがえってくるような懐かしさを感じさせました。全員集まっただけの練習が難しかったそうですが素晴らしいハーモニーは「さすが」の一言でした。

指揮辻真紀子氏(H66年卒)による函館市立深堀中学校・オレンジカルサイト



受付前で開演を待つ皆さん

アンサンブル合同合唱団による「幸いあれ、天の女王よ」「ある真夜中に」は澄み切った美しい歌声に心が洗われるようでした。三曲目の東日本大震災復興ソング「花は咲く」はソロで始まり、胸に熱いものが込み上げてきました。伴奏は函館在住の若手ピアノリスト類家唯氏でした。佐藤知歩氏(H20年卒)によるフルート独奏「演奏会用ソナタ」は、組曲のように切れ間なく演奏されるフルートの美しい音色に最初から最後まで魅了させられました。複雑な旋律もなめらかで、技術の高さが伺えました。ピアノ伴奏は宮越史江氏でした。

吉本有佑氏(H21年卒)と内科医である畑中一映氏による二台ピアノ。「スカルム・シユ」は三曲からなり、ジャズ風の明るさや静けさサンバのリズムの激しさなど、緩急のある男性二人の息の合った

た力強い演奏でした。

指揮飯田奈穂子氏(H44年卒)、ピアノ小寺奏子氏による北斗市立上磯小学校合唱部の演奏では「星の大地に」「ころのてんきよほう」より「こころのありか」を表現力豊かに、児童とは思えない素晴らしい発声で言葉もはつきりしていて心に響きました。

田中則子氏(S36年卒)のメゾ・ソプラノ独唱では、一握の砂より「忘れがたき人々五首」他、全てが伴奏者函館校名誉教授佐々木茂氏が作曲された曲で息もぴったり。美しい歌声は日本歌曲の演奏向上に努めていらつしやる田中氏らしい素晴らしい演奏でした。

大村義美氏(S44年卒)のテノール独唱では「海の詩」と「グラナダ」を熱唱。数々の演奏会においてソリストとして活躍されている氏ならではの豊かな声量に圧倒されました。奥様である大村陽子氏との息の合った演奏もさすがでした。

函館市立日吉ヶ丘小学校金管バンド部による演奏は、指揮古川典之氏(H77年卒)と一体となった魅力的な演奏を聴かせてくれました。「音みがきは自分みがき、音楽づくりは仲間づくり」をモットーに練習を重ねているとのこと、言葉通りの生き生きとした演奏でした。あまりの技術の高さ(素晴らしい)に小学生であることを忘れてしまいました。

最後は、指揮横井真氏(H77年卒)函館市立桔梗中学校吹奏楽部による演奏です。「ステツプ・バイ・ステツプ順次進行によるコラル」「シャコンヌ」は豊かな響きと迫力ある演奏に圧倒されるほどでした。日頃から「心から心へ」をテーマにして活動しているとのこと、自分たちの音楽を思う心を伝えようという気持ち

ちが聴衆の心に届いた素晴らしい演奏でした。

今回の出場団体で、深堀中、上磯小、日吉ヶ丘小、桔梗中はいずれも各種コンクールで上位入賞を果たしており、全道大会・全国大会で活躍されている学校です。会員それぞれが指導者としてたゆまぬ努力で子どもたちの人間形成にも寄与されていることに敬意を表したい思いでいっぱいです。

さらに、このようにベテランから若手まで多くの夕陽会員が一つの音楽会に参加し、音を合わせ、心を合わせて素晴らしいハーモニーで聴衆に感動を与えてくださったことは、日頃より研鑽を怠らない出演者の皆様の努力の賜物と深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、今回の音楽会開催にあたりご尽力いただいた夕陽会本部役員各位、並びに実行委員長様はじめ実行委員の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

「来年もぜひ聴きに来たいね。」会場を後にされる親子からそんな言葉が聞こえてきました。



美しい音色を奏でる
佐藤知歩氏のフルート演奏

夕陽音楽会に出演された皆さん



夕 陽 混 成 合 唱 団



函館市立深堀中学校合唱部・オレンジカルサイトアンサンブル合同合唱団



佐藤 知歩 氏



田中 則子 氏



大村 義美 氏



吉本 有佑 氏 畑中 一映 氏



北斗市立上磯小学校合唱部



函館市立日吉が丘小学校



函館市立桔梗中学校吹奏楽部

教壇で活躍する若き夕陽教師たち



教師としての決意

齊藤 希

(平成22年卒 函館市立東小学校教諭)

大学を卒業してから、間もなく三年が過ぎようとしています。中学生のときから「教師になりたい。」と心に決めていた私は、生まれ育った秋田県から、教育大学に入学するため函館に来ました。函館校での四年間と新採用としての一年間、あわせて函館五年目。私は函館五年生になりました。

五年に縁があったのか、現在は、函館市立東小学校の五年生十六名の担任をしています。

この一年を振り返ってみると、子どもたちの成長には目を見張るものがあると実感しています。

初めて出会ったところは、話の聞き方に課題が見られる子が多く、当然授業もうまくいきませんでした。特に算数は、子どもたちの理解度が低いままでした。「自分の指導の仕方が悪いからこのような状態なんだ。」と、落ち込む毎日でした。「私なんかが先生になってよかったのだろうか。」と思うこともありましたが。

そんなとき、職員室での同僚の先生方の会話が聞こえてきました。「基礎基本を定着させるためには、学習用具を絶対に忘れないようにすることが一番の近道だよね。」意を決して先生方に相談してみました。自分の学級や部の仕事があるのに、「家庭と連絡をとって、協力を得るといいよ。」という助言や、「わからない

ことはどんどん聞いてね。」というあたたかい言葉もいただきました。子どもたちも学習用具をしつかり用意し、授業に臨むことができてきました。少しずつではありますが、課題と向き合えるようになってきました。

校内研修でも、たくさんのお話をいただきました。特に、算数「整数の除法計算の商を分数で表すこと」の授業づくりでは、十分理解できていない子どもへの支援の仕方を共に検討していただきました。当日の授業では、全員の子ともたちが、図や言葉を用いて答えを導き出そうとしていました。さらに、グループ内で発表し交流することで、自分の考えをより確かにすることもできました。

現在は、子どもたちと、姿勢に気を付けたり、相手の目を見ながら聞いたりすることを大切に、授業を進めています。まだまだ改善の余地はありますが、子どもたちの成長が嬉しくて、時には「やっぱり教師になってよかった。」と思えるようになりました。

教員生活の中で悩みは尽きませんが、今自分にできることを全力で取り組む決意です。夕陽会の諸先輩方の皆様には、ご指導やご支援をいただく場面も多々あるかと思いますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。



教員としての「情熱」を胸に

澤田 庸平

(平成21年卒 函館市立中央小学校教諭)

平成二十一年の三月、北海道教育大学函館校を卒業し、三年間の期限付き教諭を経て、今年度より函館市立中央小学校で勤務させていただいております。三十名の五年生の担任となり、教壇に立ち続けていられる喜びと正採用教諭となった責任を噛みしめながら、日々充実した毎日を送っています。

正式に採用となった今、確信をもって言えることは、「期限付き教諭の時の経験が、今の自分を力強く支えている」ということです。いくつかの学校で様々な経験をし、たくさんの方の先生方、保護者のみなさん、そして子どもたちと関わってきたことよって、今の自分があるのだと強く感じております。これまでに様々なアドバイスをして下さった校長先生や教頭先生をはじめ、教師としての在り方や生き方を示して下さいました先生方や研究会等でお世話になった先生方。こんな頼りない私に対して、「先生にお任せします」「うちの子をよろしくお願いします」「先生のおかげです」と、励ましと信頼の言葉をたくさん掛けて下さった保護者のみなさん。そして、「今日も授業楽しかった」「今までできなかったことができるようになった」「先生また明日ね、さようなら」と、いつも私の心に元気と勇気を与えてくれた子どもたち。本当に心から感謝してもしきれません。

さて、現在五年生の担任として、児童一人ひとりの理解に努め、適切な支援や指導を行い、「できる・わかる喜び」を感じることのできる授業を実践するために、日々研鑽を積んでおります。様々な場面において頭を悩ますことが多く、教師という仕事の難しさを痛感している毎日ではありますが、学級経営や学習指導、生徒指導等の日々の様々な指導において、大切にしようと思っかけていることがいくつかあります。一つ目は、「やってみたい」「できるようにになりたい」など、子どもたちが心に秘めている『思いや願い』を大切にしながら指導や支援に励むこと。二つ目は、いろいろな人との「輪」を大切に学校生活を送ること。そして何より大切にしているのは、心にもいつも『子ども心』と『情熱』を持ち続けることです。

まだまだ未熟者ではありますが、これからも子どもたちの成長に関わっていくことのできる喜びを噛み締めながら、そして、教職に携わる者としての自覚と責任をしっかりと踏まえ、教師としての『自分なりの色』を社会の中の一色として出していくことができるように、自己研鑽に励みたいと思います。



何事も全力で

打越 亮介

(平成22年卒 函館市立鍛神小学校教諭)

平成二十二年三月、北海道教育大学大学院を修了し、二年間の期限付き教諭を経て、今年度より正採用教諭として函館市立鍛神小学校で勤務させていただいております。期限付き教諭の二年間お世話になりました鍛神小学校の教壇に立ち続けていられる喜びを感じながら、新たな気持ちで充実した毎日を過ごしています。函館での生活が始まり早くも九年が経とうとしています。生まれ育った小樽の

「行動」の解釈を適切に行い、個々の教育的ニーズに応じた指導を行うため、日々研鑽を積んでいます。児童の行動一つ一つに注意し、その子にとって効果的な支援を考え実践することに力を入れています。また、交流及び共同学習の機会を活かし、児童の社会性を育てるために意図的、計画的に指導体制を整えるようにしています。

高校を卒業後、期待と不安を感じながらの函館での大学生活がスタートしました。教員を志すようになったのは、大学生活が始まってからでした。大学の授業や教育実習、ボランティア等を通して、子どもたちと関わる機会をいただき、未来から授けられた「宝」である子どもたちを成長させる教員という職業に強い使命感を感じ、教員の道を選択することになりました。しかしながら、教員を志してから教員採用試験に合格するまでの道のりは長く、挫折することもありました。そんな時は、「挫折は財産である。」とおっしゃられた夕陽会の大先輩のお言葉を思い出し、諦めずに努力し夢を叶えることができました。

現在は、特別支援学級の担任として、児童一人一人の特性を理解することに努めています。特に、児童の「困り感」や



学ぶ心を大切に

酒井 文

(平成22年卒 函館市立北美原小学校教諭)

平成二十二年三月、北海道教育大学函館校を卒業し、今年度より函館市立北美原小学校で勤務させていただいております。

期限付き教諭の二年間は中学校で勤務させていただいておりました。そのため、採用をいただいたときは嬉しさと同時に初めての小学校勤務への不安も感じていました。四月から三年生の担任となり、初めての経験ばかりで、やはり、不安や悩みばかりの毎日でした。的確な指示がでなかったり、子どもたちの発言をうまく活かせなかったりと、私の不安が子どもたちに伝わってしまう場面もありました。

そんな時、校長先生や教頭先生をはじめ、たくさんの方の夕陽の先輩の先生方がさりげなく手助けをしてくれました。授業のアドバイスや指示の出し方、子どもたちへの接し方などを教えていただいたおかげで、日々、様々なことを吸収し成長することができています。また、日々励ましをしていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、「先生、今日は計算まちがわなかったよ。」「今日の勉強、楽しかったね。」と笑顔で話しかけてくれる子どもたちの姿が教師になって良かったなと感じさせてくれます。また、日々の生活や学

習での成長はもちろん、運動会や学芸会などの行事を通しての成長はすばらしく、感動と同時に、子どもたちの成長をもっと手助けしたいと感じるようになりました。私が不安や悩みをかかえているときも、私を信頼し、笑顔で話しかけてくれる子どもたちに何度も助けられました。何事にも弱音を吐かず、一生懸命取り組む子どもたちの姿に、私自身も励まされ、充実した日々を過ごしています。学ぶことはたくさんあり、それが先輩の先生方からだったり、時には子どもたちから学ぶところでもあります。学校現場のあらゆる所で学ぶ機会があり、その一つもよろそかにできないと強く感じております。まだまだ未熟者ではありますが、子ども達と過ごす時間を大切に、一人一人の良さを最大限に引き出せるよう、日々努力していきます。また、私も、子どもたちとともに学ぶ心を大切に成長し続けていきたいと思っています。

最後になりますが、夕陽会の皆様には今後ともお世話になるかと思っております。その時は、どうぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



支部の歴史をふりかえって



上川支部の歴史を振り返って

上川支部長 森 将人

(昭和57年卒 旭川市立知新小学校教頭)

上川支部長を仰せつかつて二年目になりました。

今回、「支部の歴史を振りかえって」の原稿依頼を頂き、大変困ってしまいました。と言うのも、私が上川の地に来て支部会員となつたのは、昭和六十三年のことだからです。手元にも、歴史を振りかえるような資料もありません。そこで、私が上川支部会員となつてからの約二十数年の思い出を中心に述べたいと思います。

私が正式に会員となつた(総会等の案内を頂いた)のは、平成元年の頃です。

当時幹事長をされていた、昭和三十二年卒の鈴木孝先生にお誘い頂き、初めて支部の総会・懇親会に出席いたしました。その席には、昭和十六年度卒の鈴木啓二先生ら、上川の教育の牽引役を担つていらした錚々たる元校長先生方がおそろいでした。そのような中で、「失敗した。出席するんじゃないか!」と、緊張と後悔ではおを引きつらせながら自己紹介したのが、私の夕陽会デビューでした。

緊張のまま、テーブルを回って挨拶をさせて頂くと、大先輩の皆様が「よく来たね!」「これからよろしく!」と、大変温かく迎えて下さったこと、今も懐かしく思い出されます。

また、この頃は必ず懇親会のベとして、みんなで輪になって寮歌を斉唱しました。

今では大きな声で「巴湾の水の精を掬みくみ」と歌えるようになりましたが、寮生ではなかったもので、来賓の方々と一緒に口パクでした。来賓の方々も大変、だったのではないのでしょうか。

当時の支部長は、昭和三十六年度卒の川道隆雄校長先生でした。その時に会計役を依頼され、役員のお仲間に入れて頂きました。

その頃は、OBの方々始め会合等に参加する会員も多く、活発な活動が為されていたと記憶しております。しかし、会合で会う顔ぶれはいつも同じで、新会員が少なく、活動の継続という点を危惧して、若者の会(平成元年度卒業以降)を開催しました。第一回目は大勢参加下さり、大変盛り上がりしました。懐具合の寂しいその会を支えて下さったのは、OBの方々によるご寄付で、大変有り難いものでした。その時に出席して下さった何名かは、今では支部役員の中核を担って下さっています。

その後を継いだ昭和四十二年度卒の幸坂正徳校長先生の頃から、宗谷・留萌・上川の各支部持ち回りによる交流会が開催されるようになりました。各地域で開催される際には、会員が大勢集まり、本部からのご出席頂き、盛大に交流・懇親を深めることが出来ました。

三支部とも、会員が少ないため、充的な活動が出来ないという同じ悩みを抱え、解決のための方策等各支部の取組を交流しました。懇親会では、学生の頃のエピソードや函館の良い思い出を紹介し合ったり、「夕陽会の陽(火)は決して消さないぞ!」と誓い合ったりしたものでした。あるときは、美瑛のペンションで交流会を開催しましたが、あまりにも盛り上がりすぎ、宿の方から「お静かに!」とおしかりの言葉を頂いたこともありました。

また、この頃から懇親会のベとして、「夕陽讃歌」を全員で斉唱するようになりました。来賓としてお招きした他の同窓の方から、「いい歌だね!」とお褒めの言葉を頂き、大変嬉しく思ったこともありました。

その後、昭和四十九年度卒の石川博美校長先生(当時教頭)が支部長となり、その際に私も幹事長を仰せつかつて、支部の活動の運営に直接携わることになりました。

石川支部長は、七年の間、「夕陽」のえんじの旗のもと、上川支部の活動を引っ張って下さいました。

この頃から、支部の会員にも世代交代の波が押し寄せ、活動の再構築が求められるようになりました。

まず、残念ながら多くなったOBの方々の計報に失礼なく対応できるように、慶弔費会計を特別枠で設けることにいたしました。会員の皆様に会費と別に寄付をお願いしたところ、皆様大変積極的にご協力下さり、葬儀等の際に支部長の負担を軽減することが出来ました。

二つめは、平成の会員が増える一方、OBの方々の会合や催し物への参加がほ

とどなくななり、心寂しく思っておりましたので、OBだより「夕陽が丘」の発行を企画しました。学生当時の思い出や現在の様子などの原稿をいただき、お互い懐かしむことが出来たと、大変喜んで頂きました。

また、ただ交流するだけでなく、意義のある同窓会にするために、研修にも力を入れることにしました。会員が自校で行う授業研究会等に積極的に参加したり、役員が講師となつて研修会を開催したりしました。

このように多くの貢献をされた石川支部長の後を受けて、私、森が平成二十三年度から支部長を拝任いたしました。

近年、教育大学再編構想による母校の新課程実施で、若い会員が教員以外の職に就くことが多くなり、会員としての連携を図ることが難しくなっております。そこで次の三点を重点目標として掲げました。

- ①会員意識の高揚と相互のつながり強化
- ・会報の発行・懇親会・方面別交流
- ②OB連携活動の重視
- ・OBランチ会
- ③研修の充実
- ・会員の研究会への積極的参加
- ・会員研修会の開催

今後も、微力な支部長ながら、役員始めOBの方々や会員の皆様のお力添えを頂き、諸先輩が脈々とつないできた夕陽会上川支部の歴史を絶やすことなく、未来につないで参りたいと思います。

以上、「支部の歴史」と標記しながら、つたない文章で、私個人の思い出を綴るのみになつてしまったことをお詫びし、改めて仰せつかつている役割の大きさを肝に銘じる機会とさせて頂きます。



胆振連合支部だより

胆振連合支部長 中澤 学

(昭和51年卒 伊達市立東小学校校長)

十三年前に噴火した有珠山も、冬の寒さの中、雪化粧をして凜とした姿を見えています。

当支部は、名前の通り胆振管内で室蘭市、苫小牧市を除いた九つの市町支部の連合体です。豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、白老町、安平町、厚真町、むかわ町、登別市、伊達市で構成しています。それぞれ市町においても支部があり独自の活動をしていますが、近年は会員の減少や夕陽の管理職がない支部もあり、活動が停滞しているところもあると聞いています。今年度、当支部の会員数は、正会員百十一名、準会員四名です。十年前は二百名を超えていましたから、半数近くになってしまいました。これは、新会員が余り入ってこないことと、会員でありながら会費を払わず集まりにも顔を出さない会員が増えたことが原因としてあります。今後は、これらの会員への働きかけと民間の会社に勤めた若い会員への勧誘が課題と考えています。

今年度の当支部の活動を紹介します。

○総会

五月、室蘭市で市町支部長と連合役員で開催

○支部長会議

十一月、室蘭市で開催

○連合支部大懇親会

一月、室蘭市で開催。本部から天野哲

征副会長に来ていただき、現職、OB九十名が集まり盛大に行った。

○学校経営セミナー

室蘭支部、苫小牧支部との合同学習会、会員四十五名、スタッフ十六名で六、七、八、十月の四回開催

○若者の集い

三十四才以下の会員を対象に西部、中部、東部の三会場での交流会

○組織部便りの発行

八、十二、三月の年三回発行

胆振管内は、昭和二十年代は札幌閥が主流であり、それを三十年代に先輩達が苦労をして夕陽のものとしたと聞いています。その流れは脈々として引き継がれています。現在も管内百三十一校中、四十五名は夕陽の校長です。(室蘭、苫小牧支部と合わせて)又、胆振教育局には辻俊行次長(昭和59年卒)、和野忠康指導監(昭和54年卒)がおられますし、田中了治豊浦町教育長(昭和49年卒)、古保博之白老町教育長がおられ、大変心強い思いをしているところです。

「胆振は夕陽の出城であり、皆である。胆振の教育は、我が夕陽が中心となつてリードしていかなければならない。」私が三十年前に先輩から聞かされた言葉です。母校は大学再編等大変な時だからこそ、夕陽会員一人ひとりの実践が試されていると思うこの頃です。



留萌支部便り／十年の節目に……

留萌支部長 秋葉 良之

(平成元年卒 留萌市立沖見小学校教頭)

支部長と幹事長を務められていた先生が急に他管へ異動となり、まだ一般教員だった私がいきなり支部長に。当時、支部の運営には全く携わっていなかったため、何をするにも訳が分からず、同時に就任した熊倉幹事長とともに手探りの状態が長く続きました。他の同窓会が大きな会場で盛大に懇親会を開催している中、私たちは居酒屋で二人だけで杯を上げることもありました。それでも、その後の転勤を契機に少しずつ声をかけ、同窓の輪を広げてまいりました。まさに一つ一つ小さな石を積み上げるがごとく、ゆつくりと。気が付けば今年には現体制ができて十年の節目を迎えます。

留萌管内は少子化の影響で学校の統廃合が急速に進み、教職員数が減少し続けていますが(私の勤務校も今年度末に閉校となります)、支部主催の懇親会にはいつも十名以上の仲間が顔を出してくれるようになりました。また最近では新卒や期限付の若い先生も参加してくれるようになり、毎回とても明るく、アットホームな雰囲気になってきました。

私たちは小さな支部ですが、その運営方針はこの十年間一貫しています。それは横のつながりを大切にし、身の丈に合った活動に取り組んでいくということです。そして日頃、勤務校ではなかなか打ち明けられない悩みをざっくばらんに

出し合い、その解決策をみんな考えて、翌日からの仕事に元氣よく向かっていくというものです。

また、四年前からは、懇親会だけでなく、もっと参加してくれた先生方にたくさんさんの「お土産」を渡せるようにしたいということ、毎年秋に「支部研修会」を開くことにしました。内容は学習指導や生徒指導等より実践的な内容を取り扱うようにしております。

今回は、本部の奥崎幹事長様のご配慮により、北海道教育庁学校教育局より義務教育課学力向上グループ指導主事の熊谷誠様を講師にお迎えし、『基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る授業の実践』と題してご講話をいただくことができました。全国学力・学習状況調査の分析に基づいた授業改善のポイントや授業を支える様々な取組(ノート指導、机上整理、話し方・聞き方の指導等)、さらには、『学力向上へのロードマップ』オール北海道でめざす目標』などについても最新の情報をお教えいただき、得るものの多い講話でした。参加してくれた先生方にも大変好評でした。

十年の節目を迎えるに当たり、今後とも本支部会員の親睦と資質向上に向け力を尽くす決意を新たにしているところです。本部並びに全国・全道各地の皆様のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

留萌支部長 秋葉 良之

(平成元年卒 留萌市立沖見小学校教頭)

出し合い、その解決策をみんな考えて、翌日からの仕事に元氣よく向かっていくというものです。

また、四年前からは、懇親会だけでなく、もっと参加してくれた先生方にたくさんさんの「お土産」を渡せるようにしたいということ、毎年秋に「支部研修会」を開くことにしました。内容は学習指導や生徒指導等より実践的な内容を取り扱うようにしております。

今回は、本部の奥崎幹事長様のご配慮により、北海道教育庁学校教育局より義務教育課学力向上グループ指導主事の熊谷誠様を講師にお迎えし、『基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る授業の実践』と題してご講話をいただくことができました。全国学力・学習状況調査の分析に基づいた授業改善のポイントや授業を支える様々な取組(ノート指導、机上整理、話し方・聞き方の指導等)、さらには、『学力向上へのロードマップ』オール北海道でめざす目標』などについても最新の情報をお教えいただき、得るものの多い講話でした。参加してくれた先生方にも大変好評でした。

十年の節目を迎えるに当たり、今後とも本支部会員の親睦と資質向上に向け力を尽くす決意を新たにしているところです。本部並びに全国・全道各地の皆様のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

留萌支部長 秋葉 良之

(平成元年卒 留萌市立沖見小学校教頭)

出し合い、その解決策をみんな考えて、翌日からの仕事に元氣よく向かっていくというものです。

また、四年前からは、懇親会だけでなく、もっと参加してくれた先生方にたくさんさんの「お土産」を渡せるようにしたいということ、毎年秋に「支部研修会」を開くことにしました。内容は学習指導や生徒指導等より実践的な内容を取り扱うようにしております。

今回は、本部の奥崎幹事長様のご配慮により、北海道教育庁学校教育局より義務教育課学力向上グループ指導主事の熊谷誠様を講師にお迎えし、『基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る授業の実践』と題してご講話をいただくことができました。全国学力・学習状況調査の分析に基づいた授業改善のポイントや授業を支える様々な取組(ノート指導、机上整理、話し方・聞き方の指導等)、さらには、『学力向上へのロードマップ』オール北海道でめざす目標』などについても最新の情報をお教えいただき、得るものの多い講話でした。参加してくれた先生方にも大変好評でした。

十年の節目を迎えるに当たり、今後とも本支部会員の親睦と資質向上に向け力を尽くす決意を新たにしているところです。本部並びに全国・全道各地の皆様のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

前納会費納入会員名簿追加分

中澤 学 伊達 昭51 多賀谷 智 函館 昭45

(平成二十五年二月二十日現在)

夕陽会員計報

福田 秀策氏 昭22	24・1・25	小澤 喜雄氏 昭36	24・12・13
旭川市永山3の21の276の3	幸子氏	七飯町本町2の10の19	敏子氏
永田 稔氏 昭38	24・3・1	宮川 勝弘氏 昭33	24・12・13
七飯町緑町1の3の17	洋子氏	函館市深堀町10の6	節子氏
秋田 幸誠氏 昭19	24・11・23	大淵 亮三氏 昭26	24・12・30
五所川原市大字浅井字色吉165	祐氏	函館市中道1の12の11	京子氏
北村 園彦氏 昭32	24・11・26	石塚(高井) 潔氏 昭26	25・1・7
函館市富岡町1の18の9	龍彦氏	登別市美園町5の35の12	敏子氏
田口 勤勉氏 昭17	24・11・26	遠藤多喜雄氏 昭25	25・1・12
坂井市坂井町朝日8の5の18	和正氏	七飯町本町3の11の28	節子氏
大塚 誠氏 昭32	24・12・4	鎌田 芳樹氏 昭49	25・1・20
伊達市末永町200の24	静子氏	函館市花園町39の11	美世子氏
松村 泰作氏 昭23	24・12・5	辻口 賢司氏 昭44	25・1・22
函館市港町1の23の26	矢島了子氏	函館市八幡町18の23	良子氏
岩田 隆治氏 昭12	24・12・6	大坂 元夫氏 昭27	25・1・25
仙北郡美郷町六郷字本道町43	隆則氏	安平町追分花園3の43	美恵子氏
鍋谷 州春氏 昭41	24・12・8	紺野 良一氏 昭39	25・2・17
札幌市東区東苗穂13の3の16の15	美智子氏	函館市桔梗3の13の12	芳子氏
村田 一夫氏 昭15	24・12・8	(平成二十五年二月二十日現在)	
小樽市松ヶ枝2の15の15	愛子氏		

前納会費制度

利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(隔年発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載、その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により次の四段階になっております。

- ①大正年代の卒業生 五千円
- ②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万円
- ③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円
- ④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報第二〇九号をお届けいたします。今回も、皆様から多くの玉稿や貴重な写真等をお寄せいただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

◆今号の表紙は今年開業百年を迎える函館の市電風景です。また雪残る二月の十字街電停の薄暮の光景をカメラに収めました。一世紀の時を経て、市民の足として活躍する市電は、函館の風景の中にすっかりと溶け込み、今後大切にしたい私たちの貴重な財産です。

◆さて、函館校も来年度、創立百周年を迎えます。前身の「函館小学校教科伝習所」から数えるとその歴史は百三十七年にもなります。母校は今、学部再編の嵐の中で小学校教員免許取得機能がなくなるかもしれない危機に直面しています。同窓の皆さんの熱い思いで、教員養成機能存続の嘆願署名は総計四万筆近くになりました。

◆二月十六日に行われた講演会「まちづくりと大学のリレーションシップ」では岩船寛氏が私たち同窓に大きな勇気を与えてくださいました。心より感謝申し上げます。

◆ぜひ掲載してほしい情報・取材してほしい題材等、どしどし本部事務局や情宣部にお知らせください。お待ちしております。

(情宣部長 古川 邦彦 記 昭56卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(0138) 46-2235

夕陽会専用(0138) 34-5520

FAX番号(0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鷗亭)氏(昭4卒)